

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 121	提案機関名 環境農政局 水・緑部 水産課
要望問題名 鮮魚ストック出荷型定置網の研究強化	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本県における定置網は沿岸漁業の約7割を占める基幹漁業であり、県民へ水産物を安定供給するためにはその存続が不可欠である。現在、定置網の経営安定を図るため、相模湾水産試験場では、急潮対策、魚種交代に適合した網型改良、箱網の設計変更、網締め方式の改良などの試験を行い、これによる技術支援を行い一定の成果を上げている。しかし、海況条件により漁獲量が大きく変化し、安定的に水産物が供給できないという定置網の本質的な問題については十分な対策が図られているとは言えない。定置網漁獲物の安定供給に資する技術開発は地産地消の拡大や魚価向上の観点からも早急に取り組むことが望まれている。 このことから、定置網漁獲物の安定供給に資するための技術開発（具体的には、好漁時に大量に漁獲された魚を生け簀網等に一時的にストックし、これを不漁時に販売する鮮魚ストック出荷型定置網及び漁港内での畜養システムの開発）について試験を実施することを要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 沿岸漁業開発試験、定置漁業活性化支援研究		
対応の内容等	現在、沿岸漁業開発試験において蓄養水面で計画されている蓄養・出荷事業を技術面で支援することを目的に蓄養水面での使用に適した蓄養生簀の開発に取り組むとともに、小田原市漁協が行なう漁獲物の蓄養、出荷等の試験の実施を支援している。 また、定置漁業活性化支援研究では、猪口網を対象に生簀活用型定置網の研究を行っている。この知見を基礎として、更に、県下で広く用いられている落網を対象に鮮魚ストック出荷型定置網の開発を実施したい。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			